



旭志伊萩地区（菊池市）

人々が生き生きと心豊かに安心して暮らせる地域づくり

ビジョンの概要 地区の課題

- ・担い手が高齢化し、後継者が少ない
- ・個人所有の農業機械が多く、老朽化を機に離農の懸念がある
- ・高収益作物の栽培が少なく、土地の収益性が低い
- ・管理困難あるいは作付に不向きな農地が一部あり、耕作放棄の懸念がある

ビジョン

地区の目指す姿

(1) 担い手の確保とコスト低減

- ①「農事組合法人杉井川」を核として農地集積を進め、機械の集約・農地の効率的利用によるコスト低減。
- ②雇用環境を整備し、後継者の定着や雇用労力の確保を図る。
- ③定年帰農者の法人構成員への参加を推進。

(2) 農業従事者の所得向上

- ①新規品目として、にんにく等の野菜の栽培及び加工に取り組む。
- ②法人の経営安定と構成員の所得向上を図る。

(3) 基盤整備による作業性の向上

- ①作業機械を導入し、自力で簡易な基盤整備（用水路の拡幅や畔の除去）による区画拡大。
- ②老朽化したパイプラインの更新に取り組む。

成果目標

- ・法人の経営面積を40haまで拡大する。
- ・にんにく等の野菜を2ha栽培し、加工品の開発にも取り組む。
- ・畔の除去等により1haの簡易な基盤整備に取り組む。

ビジョン策定のプロセス



法人経営で安定した
営農体制をつくり、
農業を続けたい

理想の営農体制

法人経営や共同で使用する機械の導入によって農家個人の負担を軽減し、コスト低減と労働力確保を図りたい。法人経営による米の生産や販売、収益向上につながる新規品目の導入を主軸に本事業を進めたい。

具体策の検討

事業を活用することで実現可能な具体的方策（機械導入等）を計画し、伊萩地区で農業の持続・継承を図るという目的意識を再確認した。

法人経営の目標が定まる

営農改善組合時の先進地研修で山鹿市の「農事組合法人庄の夢」を視察、理想に近かった。法人経営の目標が定まり、長年リーダーシップの取れた活動も功を奏し、大きな問題なくスムーズに合意を得ることができた。

具体的取り組み

(1) 担い手の確保とコスト低減

- 農事組合法人杉井川を核として農地集積を進め、機械の集約・農地の効率的利用によるコスト低減
→法人経営により、主食用米17ha、飼料用米6ha、飼料稲7ha、裏作で麦11ha、飼料作物0.3ha作付けした。
- 雇用環境を整備し、後継者の定着や雇用労力の確保を図る
→新規就農者1名。今後3名の後継者が収納予定。
- 定年帰農者の法人構成員への参加を推進
→推進にまで至っていない。



(2) 新規品目導入による所得向上

- 新規品目として、にんにく等の野菜の栽培及び加工に取り組む
→にんにくを令和4年度から50a試験作付け。
- 法人の経営安定と構成員の所得向上を図る
→具体的な成果が上がるまでに至っていない。



(3) 基盤整備による作業性の向上

- 作業機械を導入し、自力で簡易な基盤整備（用水路の拡幅や畔の除去）による区画拡大
→令和2年度に導入したバックホーで、土壌扁平部130aを自力で整地。水田の均平化によって、麦と飼料稲の作付けを行った。3か所の水路改修もできた。
特記・機械の導入は軽作業化、効率化に役立ち、手のかかる作業も大幅に減った
- 老朽化したパイプラインの更新に取り組む
→更新にいたっていない。



成果

成果目標

- ・法人の経営面積を40haまで拡大する。
- ・にんにく等の野菜を2ha栽培し、加工品開発にも取り組む。
- ・畦除去等で1haの簡易な基盤整備に取り組む。

結果

- ・法人の経営面積⇒30ha
*拡大を進める
- ・令和4年度からにんにく栽培への取り組みを開始する。
- ・基盤整備⇒1ha
*導入機械で自力施工進む。

今後に向けて

法人経営の安定化と
新規品目の栽培開始